

気候の温暖化によりクリの生育が早まる

球磨地域のクリ品種「丹沢」「筑波」において、20年前と比べ、気温が上昇したため、発芽期が6～10日、収穫期が3～4日早くなっている。また、「丹沢」では発芽日が早い年は収穫開始日も早い傾向がある。

農業研究センター球磨農業研究所(担当者:春崎聖一)

研究のねらい

熊本県におけるクリの栽培は、近年、気候温暖化等の影響により生産量や果実品質が不安定となっている。そこで、球磨地域におけるクリの生育調査結果(1984年～2007年)を分析し、今後のクリ栽培技術の指針とする。

研究の成果

1. 1984～1988年までの5年間と2003～2007年までの5年間の平均気温を比較すると、発芽期前後では特に2月が1.9、果実肥大・成熟期では8月が1.7、9月が2.6、10月が2.3上昇している(図1、図2)。
2. 同様に、発芽日が「丹沢」で10日、「筑波」で6日程度早くなっている(図3)。
3. 同様に、収穫開始日が「丹沢」で3日、「筑波」で4日早くなっている。特に「丹沢」での発芽日と収穫開始日は相関があり、発芽日が早い年は収穫開始日も早い傾向がある(図4、5)。

普及上の留意点

1. 発芽期が早くなっているため、晩霜害を受けやすい地域や発芽が早い「銀寄」等では、注意が必要である。
2. 果実肥大・成熟期や収穫期の気温が高い年は、変質果の発生に注意が必要である。

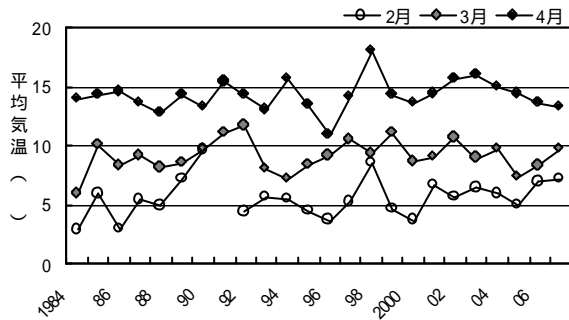


図1 クリにおける発芽期前後の平均気温の年次推移

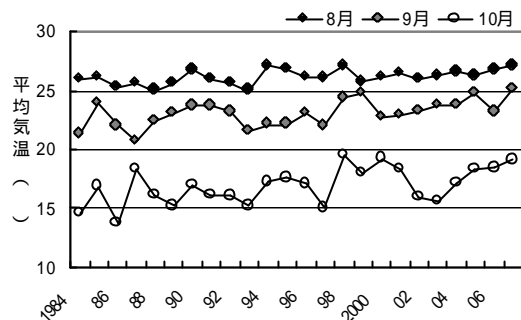


図2 クリにおける果実肥大 成熟期の平均気温の年次推移

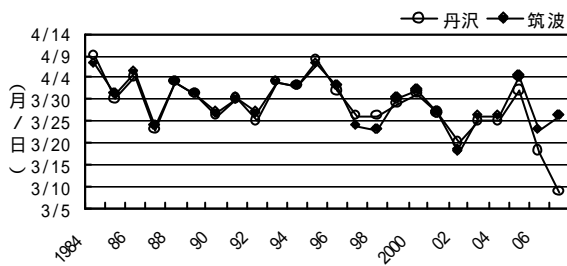


図3 「丹沢」「筑波」における発芽日の年次推移

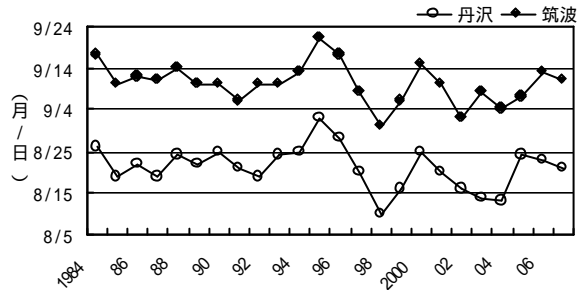


図4 「丹沢」「筑波」における収穫開始日の年次推移

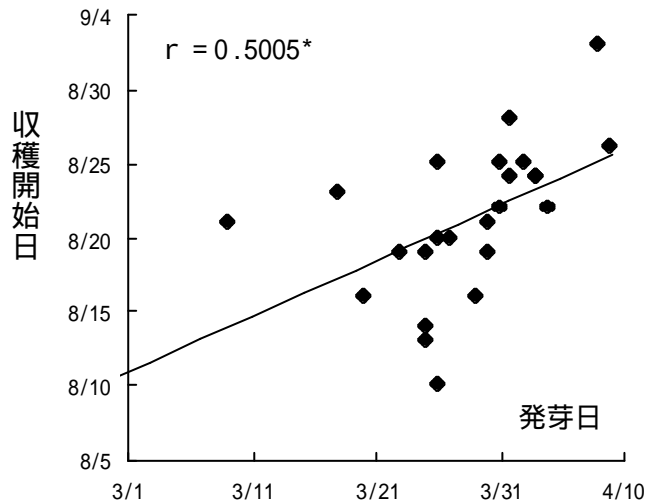


図5 「丹沢」における発芽日と収穫開始日との関係

注) 「丹沢」：樹齢14年生(1984年)～25年生(1995年)、9年生(1996年)～20年生(2007年)、調査樹数3樹
 「筑波」：樹齢16年生(1984年)～39年生(2007年)、調査樹数3樹